

TRANSPORTATION AND URBAN ENGINEERING STUDY UNIT

 YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY



1 どんな研究分野なの？

私たちの交通と都市研究分野(中村研究室・田中研究室)は都市計画の中の交通分野における諸問題の研究を行っています。力学中心の都市基盤EPの中にあつては異色の研究分野と言えるかもしれません。しかし、他の研究分野と同じく我々も、“地図に残るもの”を創り上げ、磨き上げていくという想いを持っているのです。

交通と都市研究分野の研究活動では、学生の自主性を尊重して研究テーマを定め、研究方法を詰め、具体的なデータ収集と解析を行っていきます。さらに、上記の研究活動のほかに、地域で行われている社会実験や様々な調査に協力しています。また、海外で先進的に取り組まれている交通政策や都市計画に関する調査研究を行っています。



研究室合宿@茨城
(2014年8月)



(左)ブラジル・クリチバ市都市計画
研究所(IPPUC)訪問(2011年8月)
(右)SFT@港北ニュータウン
(2012年7月)

この他にもゼミ合宿や、他大学との合同ゼミ、国内各地への見学会(およそ月に1回土曜の午後に実施しているサタデー・フィールド・トリップ(SFT)など)や海外への有志視察旅行を行っているフットワークの良い研究分野です！



2015年度研究室メンバー



2 先生に聞いてみよう！

都市交通にご関心のみなさまへのメッセージ

中村 文彦

横浜国立大学
理事(国際・広報担当)・副学長・教授



本学の交通と都市研究分野は、陣営としては小規模ながら、交通工学と都市交通計画の基礎技術を土台に、都市の交通にかかわる諸問題について、実証的な立場を貫いて研究に取り組んでいます。初代の布陣である井上孝先生と大蔵泉先生(ともに故人)のお考えを引継ぎ、2005年1月から2012年3月までは岡村敏之先生(現東洋大学教授)に御参画いただき、2012年4月より現在の体制になっています。実際におきている問題や潜んでいる問題について工学的な立場から掘り下げていくことや、地元を問わず国内あるいは海外にいたるまでケーススタディに値すると直観できる事例については、徹底的に調査して、その良さを客観的に評価して、応用可能性を明示していくことを中心的な作業とし、都市の未来を支える環境にも人にもやさしい交通システムの実現をめざしています。国土交通省をはじめ行政や、関連民間企業との共同研究等も行っており、現場とのつながりをその意味でも大切にしています。ただただ世の中や学会の流行に乗るだけでなく、趣味の世界に没頭するでもなく、社会そして地域への貢献の喜びと研究活動の楽しさを分かち合え続けられる研究スタイルの持続をめざしています。

学生へのメッセージ

田中 伸治

大学院都市イノベーション研究院 准教授



交通は私たちの生活に不可欠な存在であるだけでなく、都市の様々な活動を支える極めて重要な役割を担っています。事故・渋滞といった交通に関する諸問題を解決することはもちろん、環境負荷が少なく快適で暮らしやすい都市を実現するためには、現象を的確に理解し、都市の中での交通システムを適切に位置づけた計画・設計・運用が必要です。交通と都市研究分野では、交通現象の解析や利用者行動・意識の分析、都市活動と交通の関連性分析等を通じて、よりよい都市と交通のあり方を模索する研究を行っています。交通が好きな人、都市の様々な問題を解決したい人、魅力あるまちをつくりたい人など、皆さんの参加をお待ちしています。





どんなことを
研究してるの？

3

私たちが日常生活を送る上で交通は必要不可欠なものです。一言に交通と言っても、私たちが扱っているテーマには人や物の動き、自動車やバス、自転車といった各種交通手段、道路・鉄道・ターミナル等の施設など様々な側面があります。



私たち交通研究室では、これらに関わる都市の交通諸問題について交通工学や交通計画の視点から解明し、誰もが利用しやすい交通システムを計画・立案することを主な研究テーマとしています。



簡単にまとめると、皆さんが交通機関や交通施設を利用する中で身近な疑問を調査・解明しています。



私たちが研究している身近な疑問とは…

- ①交通事故をなくすには？
- ②使いやすい道ってどんなのだろう？
- ③バスや路面電車をもっと活用できないかな？
- ④渋滞をなくすにはどうしたら良いのだろう？
- ⑤住みやすい「まち」って、どんなのだろう？ など



研究室の
学生に聞いてみよう！

4

田原 正博

横浜国立大学 理工学部 都市基盤EP
学部4年

研究テーマ：電気自動車による
カーシェアリングの社会実装に関する研究



Q. なぜ横浜国立大学を選んだのですか？

A. 中村先生や田中先生をはじめとする素晴らしい先生方の存在、充実した研究設備、豊富な現場見学会等の優れた学習環境に魅力を感じ、横浜国立大学の都市基盤EPを選びました。このEPは各学年35人程度と他学科より横のつながりが深い点も魅力で、交流の場も多く、いまの私にとってはこの点が一番の魅力です。

山口 泰斗

横浜国立大学大学院都市イノベーション学府
修士1年

研究テーマ：路上駐車管理方策
に関する研究



Q. なぜ横浜国立大学の

交通と都市研究分野を選んだのですか？

A. 学部生の時に履修していた都市計画の授業で、たくさんの海外の事例を見て、もっと世界中の都市のことを知りたいと思ったのがきっかけです。元々、私は交通や都市計画に興味があったので、途上国の交通の研究をととても積極的に行っているこの研究室を選びました。さらに、研究室メンバーの途上国での研究に必要なデータ調査等で海外の様々な都市に行ける機会が多くあることも、この研究室の魅力の一つだと思います。

高橋 洋一

横浜国立大学大学院都市イノベーション学府
修士2年

研究テーマ：バス専用道路の維持費用を考慮した
BRTの維持管理費用に関する研究



Q. どのような研究を行っていますか？

A. 輸送力と高速性に優れたバスシステムであるBRTの研究を行っています。BRTは、大型のバスを頻繁に運行することで運営費用を抑えたまま、LRTと同規模の輸送力を発揮できることから、公共交通の整備資金不足に悩む途上国の大都市で活躍しています。しかし、大型のバス車両が頻繁に通行するとバス専用道路の舗装が激しく傷むという問題が生じています。そこで、舗装の維持管理費用を考慮に入れてBRTを低費用で運行させる方法を提案します。



Information

5

修士課程修了後の主な進路

官公庁 等	国家I種(国土交通省, 警察庁) 東京都, 神奈川県, 埼玉県, 栃木県 横浜市, 川崎市, 仙台市, 国際協力機構
シンクタンク/ コンサルタント	財団法人計量計画研究所, 三菱総合研究所 日本総合研究所, パシフィックコンサルタンツ 公共計画研究所, 日本能率協会総合研究所 企画開発, トーニチコンサルタント
他の民間企業	東日本旅客鉄道, 東京急行電鉄, 小田急電鉄 中日本高速道路, 首都高速道路, 全日本空輸 松下電器, 東日本電信電話
進 学	横浜国立大学大学院博士課程後期課程

交通と都市研究分野[土木工学棟]へのアクセス

土木工学棟は大学キャンパスの一番西側にありますので、JR横浜駅西口からバスに乗り、大学西門からお越しになると便利です。また、2011年3月より、平日に限り横浜駅からの学内直通バスが開通いたしました。

■バスを利用する場合

【平日】横浜駅西口バスターミナルより相鉄バス浜10系統「横浜国立大学循環」または「横浜新道行き」、あるいは横浜市営バス329系統「横浜国立大学循環」または201系統「循環内回り」に乗り「国大西」バス停で下車して下さい。(所要時間約20分)バス停の向かいに見える3階建ての棟(S8-3)が土木工学棟です。※本数が少ないため各社HPにて時刻を確認してください。※学内直通バス以外に、以下の「浜11」系統も運行しております。

【土休日】横浜駅西口バスターミナルより、相鉄バス「浜11」系統「釜台経由上星川駅行き」または「釜台住宅第3行き」に乗り「釜台住宅第1」バス停で下車して下さい。(所要時間約15~25分)下車後、左手に児童公園を見てすぐの角を左に曲がり、坂をまっすぐ下り、つきあたりを右に曲がり坂つたいに進んでください。50mほど行くと左手に横浜国大の西門がありますのでそこに入り、正面に見える一番近い3階建ての棟が土木工学棟(S8-3)です。

〒240-8501
横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5
工学部土木工学棟(S8-3)
TEL/FAX:045(339)4039
<http://www.cvg.ynu.ac.jp/G4/>
mailto:f-naka@ynu.ac.jp
stanaka@ynu.ac.jp

